



マーシャル方面遺族会
 (旧クェゼリン方面戦没者慰霊会)
 〒103 東京都中央区
 日本橋人形町1-8-2
 電話 03-3661-8760
 振替口座東京0-93487 番
 編集兼発行人 佐藤宗丕



会員章(バッヂ)

平成五年度
 慰霊祭総会直会
 服部くんに

平成五年三月二十八日(日)今年度の慰霊祭並びに総会が、開催されました。出席者は一九四名でした。

本殿より退下して、御神酒と神饌を頂いた後、小雨の降り出した靖国会館前で、記念写真を急いで撮って、会館

今にも降り出しそうな厚い雲の下、社頭の櫻は三分咲き位で、役員の皆さんは早朝から肌寒いテントの中で、受付をして下さいました。参集所に参りますと、すでに多勢お見えになっており、暫くはそれぞれ再会を喜び合

二階の総会会場へ移りました。総会は十一時二十五分より司会山口幹事、議長昼間常任幹事によって、議事が進められました。まず会長から皇太子殿下のご婚約の内定をお慶び申し上げる言葉に続いて、平成四年度の会務の概要が報告され、黒川幹事から決算報告(別掲)高橋監事から監査結果の報告があり、以上三件一括審議して承認されました。

十時、昇殿参拝。参加者は拜殿で修祓を受け、御本殿に昇り献饌、祭主祝詞奏上、玉串奉奠、佐藤会長の祭文奏上に続き、会長、栗林徳五郎さん、大給湛子さん、前田フサさん、山田あき

次に新年度の会務の計画と予算(別掲)について会長から説明があり、更に環礁の発行について会員の協力を頂きたい、来年の五十年祭を盛大、厳粛に行うために、特別委員会を設置した

さん、猪瀬ナカさん、上原帝二さん、三浦久夫さん、田賀護さんの九名が代表として、玉串を奉奠、一同拝礼、黙禱をして思い思いに亡き御霊を偲びま

した。



目次

慰霊祭 総会：服部くんに 1
 本年度役員等決定 2
 厚生省主催の現地慰霊巡拝を希望する方へ 4
 五十年祭を盛大に 4
 五十年を顧みてに御寄稿を 4
 慰霊祭参列者芳名 4
 平和の礎……高見沢およう 5
 ウォッセに眠るお父さんへ……高見沢宣子 5
 お便りの中から 7
 村掘 光栄 富田 ミツ
 上原 帝二 高林 セキ
 徳原 勇 吉田ひさ子
 坂下 綾子 片岡 良子
 ルオット座談会 10
 黒川 誠 佐竹 エス
 山下 みつ 蓮尾 諭吉
 岩田とし子 金子 武晴
 戦地からの便り……金子 武晴 12
 靖国神社春季例大祭斎行……13
 ウオツジエ島のハイスクールに図書費を贈呈……篠崎 英夫 13
 名簿訂正 14
 寄付者芳名……15
 靖国神社奉賛会に入会しましょう 16
 本部だより……16
 五十年祭現地慰霊巡拝についてお尋ね……16

いとこの提案があり、以上一括異議なく承認されました。

次に、役員任期満了による改選は会則規定の手続きを経て後記のとおり選任され、役員とボランティア三人(佐藤会長夫人、昼間常任幹事夫人、事務局佐久間フミ子)が紹介されました。以上で総会は終了致しました。

本年度役員等決定

本年度の役員等が、総会及び役員会の決定により夫々次の通り選任又は委嘱されました。

顧問	栗林 徳五郎
相談役	大給 湛子
会長	佐藤 宗 丕
常任幹事	佐竹 エス
同	昼間 楽 平
同	荒木 常 子
幹 事	石谷 典 夫
同	内海 淑 子
同	黒川 芳 誠
同(会計)	高林 芳 夫
同	山口 良 二
監 事	栗原 利 雄
同	高橋 鎮 夫
同	石井 清 夫
同	篤志会員
同	田代 章 一
同	土屋 太 郎
同	徳原 徳 子
同	並木 進 子
同	長谷川 栄 次

篤志会員 長谷川 敏

同 浜松 恒雄

同 本 埜 和昭

同 松 平 永芳

同 村 瀬 松雄

同 森 山 喜久雄

同 山 村 要

同 横 溝 幸四郎

☆ 五十年祭委員

佐藤 宗丕・佐竹 エス・昼間 楽平

荒木 常子・石谷 典夫・内海 淑子

黒川 誠・高林 芳夫・山口 良二

栗原 利雄・高橋 鎮夫

岩田とし子・遠藤 安男・片山 計

近藤マスエ・斎藤耕太郎・津久井艶子

佃 喜美・長塚 隆夫・中村 久

西森サツキ・藤田 清瀬 (以上会員)

☆ 広報委員

佐藤 宗丕・佐竹 エス・昼間 楽平

荒木 常子・石谷 典夫・内海 淑子

黒川 誠・長塚 隆夫

☆ 異 動

本年四月の人事異動で厚生省社会・援護局業務第一課長に田代章一様が、同第二課長に並木進様がそれぞれ就任されましたので、恒例により本会の篤志会員をおねがいし御承引いただきました。

直 会 旅 行

午後1時すぎ35名を乗せたバスは、靖国神社をあとにして、今宵の宿愛知県蒲郡市の西浦温泉へと向いました。お馴染となった日通旅行社の桐谷さんから、今年は特別に美味しいお弁当を選んだとの言葉通り、味の良い幕の内と、会長さんの奥様から差し入れのおいしいミカンを頂きながら、激しくなつた雨も気にならず、バスの中は話の花が咲きました。

やがて「靖国神社の歌」「あの椰子の島」を手始めになつかしの国民歌謡の斉唱となりましたが「水師營の会見」「戦友」を全部暗唱する女性の居たのに感嘆の声があがりました。

途中で二ヶ所ほど渋滞がありました。が、予定より早く午後6時、西浦グラウンドホテルに到着しました。熱海を思わせるような温泉街で、部屋は三階の海に面した眺めのよい所でした。しばらくして、靖国神社の御霊に供えられたお神酒を、朱塗に金の御紋章入りの御盃で戴きましたが、トロリとしてとても美味しく、五臓六腑に沁みるとはこういう味かと話しました。定刻宴会場に集り、会長さんから「今晩は緊張から解き放されて、お互いにお心を開いて直り合いましょ」とのご挨拶があり、長崎から参加された会友の川副さんの発声で乾杯をして、しば

らくは色どりも味も良い海の幸、山の幸に満足して箸を動かして、おりました。実たけなわとなつてカラオケが始まり、それぞれ素晴らしい喉を披露してくださいと、最後は会長さんの武田節の替え歌でおひらきとなりました。部屋に戻り、神経痛、リウマチに効能があると言う温泉に浸って、旅の疲れをとりました。

翌日は7時半朝食、8時半出発で、昨日の雨はうそのように晴れ上がりましたが、風が強くて三河湾には白波がたっていました。

洋上に浮かぶ猿ヶ島、兎島を眺めながら、ガン封じ寺、正式には西浦不動無量寺へと向いました。ここは秘仏公開帳の折に、厨子からサルノコシカケと加持に使う秘伝書が見つかった為に、「ガン封じ堂」を建立したとのことです。和尚さんのガン予防のお話は、食事は昔ながらの豆、豆腐、海藻、緑黄野菜、酢の物などを摂るのが良いと言ふことでした。お守りを求め、千仏堂を巡り、次の三ヶ根山に向いました。山頂へと吹き上げる寒い風の中を、三ヶ根観音、比島観音に参拝しました。

本会に關係のある関東軍独立守備隊歩兵第十一大隊(駆三一三一部隊)の碑には、慰霊碑護持会の太田会長さん以下幹事の皆さんが、碑前を清掃して花を供え、私共を迎えて下さいました。次に関東軍独立守備隊歩兵第十六大隊(駆三一三三一部隊)の慰霊碑、さら

に東条英機大将以下の七士を祀る殉国七士の墓に、花と線香を供え、ご冥福をお祈りし、記念写真を写して聖地に別れを告げました。

最後の目的地は豊川稲荷でした。通常お稲荷さんと言えば、赤い鳥居を思い浮かべますが、ここには赤い鳥居は見当らずに、山門の扉はけやきの一枚板で作られ、別名くじゃく門と言うとのこと。商売繁昌のお稲荷さんに柏手をうってお参りしてから、隣に並ぶ曹洞宗の円福山妙嚴寺にも参り、門前の大鳥屋観光で昼食を頂きました。

この店の創業者森島会長さんの軽妙洒脱なガイドぶりは、門前町の名物とのこと。ここで下車する七名は、お店の方が豊川駅まで案内して下さいだったので、ご挨拶もできず慌ただしく別れをしてしまい、心残りでしたが道中のご無事と、来年又お元気で再会できますことを祈りつつ帰途につきました。

尚、会長さんから来年度は五十年祭を行うので、直会旅行は時間的に無理があるのではないかと、もし実行するとしても、東京近辺でとのお話がありました。来年はとも角として、直会旅行は出来る限り続けて欲しいとの皆さんの希望でした。

最後に会長さん始め役員の皆さんに大変お世話になりましたことを、心から感謝申し上げます。

第29期決算報告書 (自平成4年1月1日 至平成4年12月31日)

第30期一般会計予算

マーシャル方面遺族会

(自平成5年1月1日 至平成5年12月31日)

1 一般会計収支計算書

2 一般会計財産目録 (平成4年12月31日現在)

<収入の部>

科 目	金 額
前期より繰越	5,390,880
会 費	1,047,000
寄 付 金 等	1,537,378
受 取 利 息	500,891
雑 収 入	21,500
(小 計)	3,106,769
合 計	8,497,649

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	68,566		
普通預金	297,053		
郵便振替	135,700		
金銭信託	1,630,962		
定期預金	2,900,000		
国 債	1,500,000		
		次期へ繰越	6,532,281
合 計	6,532,281	合 計	6,532,281

<収入の部>

科 目	金 額
前期より繰越	6,532,281
会 費	1,100,000
寄 付 金 等	1,500,000
受 取 利 息	500,000
雑 収 入	20,000
(小 計)	3,120,000
合 計	9,652,281

<支出の部>

科 目	金 額
慰 霊 費	430,079
運 営 費	516,252
広 報 費	610,519
印 刷 費	12,097
通 信 費	170,918
消 耗 品 費	15,112
会 議 費	82,693
送 金 諸 費	27,560
公 租 公 課	99,932
雑 費	206
(小 計)	1,965,368
次 期 へ 繰 越	6,532,281
合 計	8,497,649

3 特別会計 (現地慰霊碑維持基金勘定)

収 入 の 部		支 出 の 部	
前 期 以 前 繰 越	金 額	前 期 以 前 繰 越	金 額
前期より繰越	7,500,000		
		次期へ繰越	7,500,000
合 計	7,500,000	合 計	7,500,000

(注) 定額貯金並びに貸付信託として保管

平成5年3月2日

監査の結果上記の報告は適正且つ正確であることを認めます。

監 事 高 橋 鎮 夫 ㊟

マーシャル方面遺族会
会 長 佐 藤 宗 丕 ㊟

<支出の部>

科 目	金 額
慰 霊 費	500,000
運 営 費	550,000
事 務 所 費	600,000
広 報 費	650,000
刊 行 費	150,000
通 信 費	200,000
会 議 費	100,000
印 刷 費	50,000
消 耗 品 費	20,000
公 租 公 課	100,000
雑 費	5,000
送 金 諸 費	30,000
(小 計)	2,955,000
次 期 へ 繰 越	6,697,281
合 計	9,652,281

皇太子殿下 雅子妃殿下

御成婚おめでとうございます

厚生省主催の 現地慰霊巡拝を希望する方へ

厚生省主催の平成五年度本会関係地域への慰霊巡拝はおよそ次のとおり行われます。

一、地域 マーシャル諸島・ギルバート諸島

二、時期 平成五年十二月上旬 約八日間

三、人員 約四〇人

四、経費 約五〇万円〜五二万円(過去の実績)

参加御希望の方は居住地の都道府県の民生(厚生、援護)主管課にお問合せの上その指示に従ってお申込み下さい。参加者には国費により経費の約三分の一が補助されます。申込まれた方は参考のため本会にハガキでそのことをすぐお知らせ下さい。

五十年祭を盛大に!

明年は昭和十九年の玉碎の年から五十年になりますので、平成六年三月二十七日(日)に厳粛かつ盛大に、五十年祭をとり行うこととしました。
今年三月二十八日の総会で五十年祭

委員会設置を定め、委員を、2頁のとおり委嘱して具体案づくりにとりかかりました。

運営などについて会員の皆様から活発な御意見を頂き、より有意義なお祭りとしたので御協力の程を切にお願いたします。

五十年を顧みてに御寄稿を

お別れした日をついこの間のことのようににはっきり覚えていたのに、あれからもう50年も経ってしまいました。来年の環礁50年祭記念号の五十年を顧みて特集に、今日までの長かった道のりを書き留めておこうではありませんか。

1行17字(句読点も1字)で60行位を目安にお書き下さい。

戦地からのお便りなどをお持ちでしたらコピーして頂けましたら幸いです。尚、勝手ながら採否は広報委員に御一任下さい。返却を要するお便り、写真などは簡易書留として下さい。

靖國神社奉賛會に御入会を

慰霊祭参列者芳名

(敬称略、順不同)

今年三月二十八日(日)の慰霊祭に次の皆様が参列されました。参列しても受付で手続きをしなかった方は掲載できません。参列された方は一九四名で、氏名のわからない方は六名です。

北海道	上原 帝二	大野 清子	中村 久	中村 順子
宮城	松木 孝子	橋口 昭利	西沢 和子	沼山 正英
秋田	加藤 カヨ	浜田つき子	蓮尾 諭吉	蓮沼 一栄
山形	長岡 仙一	浜田つき子	番場 信子	昼間 栄平
福島	富田 ミツ	昼間志津子	松平 永芳	水野 薫
茨城	安藤 啓次	望月とよ子	森田 喜代	井上 キチ
大熊	正美 大熊	加藤 ヨウ	柳沢 正雄	山口 良二
若狭	英子 若狭	山森 久江	渡辺 妙子	渡辺 勇
栃木	猪瀬 ナカ	小林 重雄	日下部武男	佐久間フミ
木村恒三郎	菊池 彦巨	神奈川 重雄	赤坂 スズ	石渡 綾子
埼玉	井沢 なを	能勢 澄子	岩田とし子	榎本 京子
近藤マスエ	小室 洋子	内藤つる子	鯛尾 房江	渡辺キヨ子
柴田 貞子	小野 リエ	榎本 益明	大石 純一	大石アサ子
菅野 久雄	菅野つね子	大石 岳男	大石美代子	片山 計
藤田 清瀬	山下 みつ	佐藤 登志	佐藤 隆一	佐藤 章子
千葉	岩佐 とみ	佐藤 加久也	佐藤 麻起子	実戸献吉郎
浄永 孝	秋元満利子	杉田 絹恵	野田 喜一	野田 精子
豊谷美恵子	豊谷 秀光	谷 達也	土屋 太郎	長塚 隆夫
宮本 豊吉	谷沢 英子	長塚 千里	西森サツキ	吉田 操
東京	青木 利一	吉田 正次	新 湯 泉	江村 源次
荒木 常子	石川 勲	石谷 典夫	新 湯 泉	片桐 サキ
浮田 櫻代	内海 静枝	内海 淑子	齊藤キクノ	渋谷セキノ
遠藤 安男	大石 潔	大給 湛子	藤田 ヨリ	藤田 正勝
加藤 照	国松ふみ江	山田キヨエ	山田 昭雄	山田 正三
栗原 利雄	黒川 誠	黒川 直吉	米田 豊治	米田 トシ

小林 法子 下浦 恒寿 小山キミ子
斎藤耕太郎 斎藤 英美 坂本美枝子
佐藤 宗丕 佐藤 ナヲ 佐竹 エス
白井 まさ子 白井 勝年 白井小夜子
白井 正恵 鈴木つな子 菅沼 昇
菅谷喜代子 関谷 シモ 関谷 博志
高橋 鎮夫 高林 芳夫 佃 喜美
長尾 静子 長岡ふじえ 中田 テル
大野 清子 中村 久 中村 順子

富山県 池田 淑子 村楳 光栄
 福井県 田賀 将一 田賀 朋子
 田賀 英子 田賀 奨 田賀 護
 田賀 茜 坪内 一枝
 長野県 伊藤ますの 山田 二美
 神田 環 高見沢およう 高見沢佐一
 郎
 岐阜県 吉田 綾 渡辺 三三
 静岡 野崎 豊秋 服部くに多
 三浦 久夫
 愛知 大森 すず 浜田 芳枝

山田 あき
 兵庫 安福 道明 安福きよ子
 香川 秋山百合子 真鍋 公代
 真鍋 信一
 高知 馬場 常
 愛媛 松友 公子
 長崎 井上 義夫 川副 克己
 前田 フサ 片山美千代
 宮崎 高橋 重美
 鹿児島 村上 義博 村上 芳江

平和の礎

長野県 高見沢およう

私の村(長野県南佐久郡川上村)の戦歿者二九四柱の英霊は住吉神社境内に建立された「殉国慰霊碑」に祀られ毎年秋に慰霊祭が行われています。

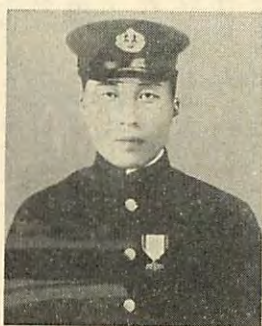
この度川上村戦歿者遺族会で「平和の礎」と題して遺族の手記と戦友の戦記を刊行しましたが、その中に私の娘のものがありますのでお届け致します。

ウオツゼに眠るお父さんへ

高見沢 宣子

マーシャル諸島のウオツゼで眠っている「お父さん」。今、そちらの気候はいかがですか？ お父さんの生まれた川上村は、今年とは異常とも思える程に暖かい雪のない平穏な一九九一年を迎

えました。昭和十八年四月二十五日に川上村を離れてから早いもので、四十八年という歳月が流れましたね。その間、いろんなことが変わりましたので、お父さんの知らない川上村のこと、そしてわが家のことを簡単にお知らせします。



あの頃の川上村の産業は、唐松苗の育苗と養蚕が盛んな時代だったようですね。今は当時の山林が開墾され、ほとんどが畑に変わり、全国でも有数な高原野菜の産地と変わってきております。また当時の水田も、今では全部野

菜畑となり、村内で米作りをする農家は皆無となり、現在では米は全部買って食べるようになりました。お父さんが満二歳の私と、病気の母を残して出征される時は、いくらお国のためとはいえ、ずいぶん複雑多岐な心境であつただらうと推察致します。あの時「お父さん」とよくいえず、口のまわらぬ未熟児生まれの私が、今は健康で主人と三人の子供に恵まれ、家族皆んなにささえられ、幸せに暮らしていますのでどうか御安心下さい。

なりました。時々こんなに幸せでよいのかと思う時があります。それは小さい頃のあの悲しい事が思い出されるからです。

思い起こせばいろいろなことがありました。私が聞いたり覚えていたことを綴ってみたいと思います。

私が幼ない頃びっくりしたことは、土蔵の二階に行きましたら、大きなトランクがあつたことです。そのトランクには外国のスタンプが押しであり、その中に英語の辞書と共に「S A K A E T A K A M I Z A W A」という名刺が入っていました。終戦の淋しい生活の中でめずらしい品物の発見でした。それがお父さんの形見であることを母に教わりました。戦前に志願兵として船で外国をずいぶん歩いたようですね。私が生まれた昭和十六年頃など蓄音機などを外国から買ってきてあり、生後間もない私に、ベレー帽をかぶせレコードを聞かせてくれたようですね。この箱の中に人が入っているのではないかと近所の人達が不思議がったと母はいました。

十六年八月に母が諏訪の日赤に入院したり、九月に佐吾平おじいさんが亡くなった時から、私と二人だけになったお父さんは、お腹をすかして泣く乳飲み児をかかえ途方にくれたことでしょう。あちらこちらにもらい乳をして歩いてくれたそうですね。その時、お乳を飲ませてくれた、中島ちまきおば

さんは元氣ですが、残念なことに高見沢あづみおばさんと持田よし子様は亡くなってしまいました。

お父さんが出征後は、御所平の中島家のおじいさんとおばあさんに育ててもらいました。お米を搗ったり、お湯を飲ませたり食糧難の時代に、ずいぶん苦労して育ててくれたようです。ミルクなど思うように手に入らない時代、愛情だけでいとしさ一杯で、苦労を苦労とも思わず、お父さんから預った私を、自分達の食べることも寝ることも削って、何とかこの子を守らねばと必死であったと、よくおばあさん達はいいました。その努力の賜物か、私は小学校六年の時、健康優良児に選ばれました。今、思い出しても幼い頃の生活は、御所平のおじいさん達一家しか思い出されません。

戦死の公報が入ったのはたしか数え年で五歳ぐらいになっていたと思います。おばあさんがワラゾウリを履いて杖をつきながら、私の手を強く握り、本家の中島利重様の家に連れて行き、戦死を知らされました。あの時の異様な祖父の姿と、公報を配達して来た郵便局の油井次郎さんのことは今でも強く頭に焼きついて、忘れることは出来ません。遺骨を迎えに小海駅まで汽車に乗れたこと、汽車の窓から分家の正水おじさんと忠男おじさんが私を車内へ強引に入れ、川上へ帰って来たこと、黒の着物を着て白い布に包まれた

箱を抱いている母が泣いている姿、葬式に多数の人が家に来たことなどは子供心にも悲しい思い出の一部分です。

その後は福沢で母と二人の淋しい生活が始まりました。私の小さい頃は母が病気で寝ている姿と、泣いている顔しか浮かんできません。そんな生活がいやで、小学校に入るまでは、ほとんど御所平のおじいさんの家に行きました。そこは私には天国で、おじいさんとおばあさんの他に、二人のおじさんとおばあさんの大人ばかり五人の中に子供は私一人。「この子は親のない可哀相な子供だ」といって私の思いのままに過ごさせてくれました。

おじ達は父親代り、おばは姉のように、この人達との生活は私の一生のうちで最も重要で、幸福な思い出深い時だったと思います。二番目のおじは青春を犠牲にして、私達親子の面倒をみてくれました。兎小屋に腰かけて学校の成績表を見ながら厳しく注意し、木琴がひけるまで夜中まで教育されたことが頭から離れません。学校から「ただいま」と帰ってくる、茶の間に床を敷いて寝ている母は、私から学校での出来ごとを聞くのを楽しみにしておりました。そして母の話というのは今日は熱が上ったとか、下ったとか。一度発病すると二、三年はかかる病気だったので、とても神経質になっておりました。

小学校に入学した時、同級生に吊り

ズボンをはいたハイカラな男の子がいました。その人のお父さんが野崎先生で、軍医さんだったそうです。原から自転車に注射器の入ったカバンを積んで往診に来てくれました。薬の臭いと鳥打帽子をかぶった先生が母に注射をしながら、いろんな話をしてくれるのが楽しみでした。御所平の祖父がヘビや鶏の生き血とか、肉はもろろん、骨はきれいにつぶして団子などにして母に食べさせました。ありとあらゆる看護の甲斐あって、今では私以上に健康になりました。

お父さんは移動製材をしたり、唐松を作ったり、唐松の種を松本まで買に行ったり、戦前としてはずいぶんいろんなことをしたそうです。病弱な母のために、平沢から八月といつて女人を頼んで唐松の草取りをしてもらったり、母には「南の国へ行けば暖かいし、バナナなどいっぱいあり栄養がとれるから必ず連れて行って丈夫にしてやるから」と口ぐせのようにいつていたそうです。ですから母にしては短い結婚生活であっても、やさしくてこの上ないよい思い出ばかりが残っているようです。

与謝野晶子の戦地の弟を詩った「君死にたもうことなかれ……十月も添わず戦に 若き新妻はのれんの陰にふして泣く」という部分があります。多くの戦争未亡人はそうであったように、母も例外ではありませんでした。私が

十二歳の時、おじやおばが結婚してしまったので、私達親子が生きるため、わが家の灯を消さないためにと親族が集まって、床にふしている母の意志とは別に再婚を決めました。御所平の中島の人々や、高見沢あいおばさんが陰になり日向になり、また近所の人々が母をささえてくれたようですが、その当時、皆んな自分達が生きていくことに精一杯な時代だけに、再婚という道を選ぶより方法はなかったのでしょうか。病人と他人の子供を育てるために来てくれた義父には感謝しております。

働き者で私にもやさしくしてくれましたが、自分の子供のないさびしさと病人の面倒を見ながら苦しい生活をするのであればならぬ不満から、根はよい人ですが、若さと苦しさを手伝って母とよく喧嘩をしました。長い間私は、男の人のちょっとした大きな声を聞くのと心臓がドキドキして、お腹が痛くなるという原因不明な持病が結婚するまで続きました。母も元氣になり私の子供達が生まれてから、いろんなことが解消されていきました。生まれた時から義祖父に大事にされた子供達は、「お母さんを育ててくれたおじいさんのいうことは、どんな無理なことでも聞いて欲しい」という私の願いを、三人の子供達は肌でしっかり感じとって、おじいさんを大切に思っているようです。現在ではおじいさんも「孫がよい

子だから幸福だ」といっております。主人にも体だけは気をつけて健康でいて欲しい。子供達に健康な両親があることが一番の幸せであることを私が痛切に感じているからです。

長男が大学在学中に、突然「アメリカに行きたい」と電話があった時、血は争えないものだとしそかに思いました。長男とすれば亡き祖父と同じように、青春時代に外の空気を吸いたかったのでしよう。二年後に帰国した長男は、社会人として一步を踏み始めました。次男は大学在学中であり、長女も大学入学が決まりました。私の現在の幸せは多くの人の助けと協力があったことを、改めて思い知らされました。お世話になった人々に何の恩返しもできませんが、義父も主人も子供達も亡き父を思い、毎日線香をあげております。

最後にお父さんの供養を自由にさせてくれる義父に、心より感謝致します。主人と子供達と護国神社や靖国神社の参拝とか、慰霊祭への参加を許してくれました。残された人生を家族の幸福のために頑張りたいと思いますので、ウォッシュに亡きお父さん、私達家族、そして川上村、大きくは日本をお守り下さい。また私以上に苦しい過去のある遺児の皆さん、各分野で活躍されていることをうれしく思い、これからも健康で頑張りたいと思ひます。遺族文集を発行して下さる川上

村、毎年慰霊祭を実施して下さる川上村に、心より感謝を申しあげお父さんへのお便りといたします。

さようなら

お便りの中から

富山県 村梶 光栄

夜行特急寝台列車で28日朝6時過ぎ上野駅到着。今年も慰霊祭に参加出来る喜びを胸に、一路桜の花が咲き始めた靖国神社へ向いました。

静寂な参道はサクサクという玉砂利の音に身のひきしまる思いでした。

参集所の中に入り朝食のお弁当を食べようとしました処、神官の方がおいでになり「何処からお越しですか」と尋ねられ「今日のマーシャル方面遺族会の慰霊祭のため富山県から出て参りました」と申しますと「朝早くに遠方からお越しになり御苦勞様です。どうぞ奥の部屋で休憩して下さい」と丁寧に案内されました。そこでお茶の接待を受け、靖国神社の年中行事のビデオも見せて頂き、身に余る御親切にただただ恐縮致しました。

お部屋に白無垢衣装や綺麗な打掛け衣装の花嫁人形のケースが数個飾ってありお尋ねすると「之は若くして尊い生命をお国の為に捧げられた御英霊に靖国の花嫁として御遺族から奉納されたものです」とのことでした。御心情

如何ばかりといろいろの想いが交錯して胸が一杯になり、涙してしまいました。十時の昇殿参拝には一しは感無量の思いが込み上げてまいりました。

恙なく總會も終り、直会旅行に出發し西浦温泉ホテルに一泊して翌日は「瘧封じ寺(無量寺)」にお詣りしてから、風光明媚な三河湾国定公園を一望する聖地三ヶ根山に登り、三ヶ根山観音、殉国七士の墓にお詣りしました。

山頂には大東亜戦争で戦没された御英霊を御供養するために戦友の方達や御遺族の会で建立された格調高い慰霊碑や観音像が幾基もございました。

御英霊の尊い礎の上に築かれた今日の素晴らしい繁栄と平和で豊かな時代に暮せる喜びに心から感謝して拝みました。そして此の太平洋の海原の向うには兄の玉砕地クエゼリン島があると思うと一層感慨深く、暫くは立ち去り難い思いでございました。

名高い豊川稲荷にもお詣りして、門前の大鳥屋觀光で皆様と中食を共にして名残りを惜しみながらここでお別れして新幹線米原経由で無事帰宅致しました。幾枚も写真を撮って頂き、早々にお送り下されども有難うございました。良い記念となり写真を見ては改めてあの時を思い出して居ります。今年には本当に有意義な参拝が出来ました事をお喜びしく思いました。之も偏に御多忙の中をいろいろ御世話下さいます会長様を始め役員の皆様方の御

陰と感謝し心から厚く御礼申し上げます。健やかに過しまして来年の五十年祭には是非とも参加出来る事を願って居ります。有難うございました。

先づは御礼まで。

福島県 富田 ミツ

東北にもようやく桜の季節がめぐって来ました。この度の慰霊祭には大変御世話様になりました。会長様御夫妻始め、役員の皆様にも厚く御礼申し上げます。帰りは大変御心配をおかけしましたが、東京駅で十五分の時間がありかけ足で八時二十二分の電車に間に合い、無事福島に到着いたしました。

線路の両側に雪が溜っていたのに驚きました。日本の南と北では、こんなに気候が異なるのに驚いた次第です。さて次回五十年祭につきまして總會の時一言の発言もなく終ったには私は残念に思いました。私は女性で勇氣もなく、誰か発言したら続いて申し上げたかったのですが、今日は私の考えを申し上げたく存じます。それは本会の目的である戦死者の慰霊にふさわしい行事であるべきだと思ひます。私は二十年祭のとき会員ではありませんでしたが、心に残る二十年祭であったと伺いましたので、五十年祭もそのような盛大な行事をお考えいだきたいと思ひます。私は五十年に会員となりました。三十年祭であったと思ひますが前夜祭に九段会館で大勢

で会長様を中心に、各島の戦闘の情報も伺い、心がなごみました。

来年の五十年祭には例年のように昇殿参拝、総会、そして九段会館に泊り直会をゆくり行なつてそれぞれの島のグループ毎に集まつて戦死者の思い出話をしたり、今後の現地墓参、慰霊碑の管理や、未だ墓碑のない島の事など、残された問題もある事と思ひますので、話し合うのもよいのではないかと考えます。

私達の余命は少ないことですので最後の節目となります。その意味からも盛大に行ない、後に残る記念品を是非お考えいただきたいと思ひます。そして直会旅行はなくてもよいと思ひます

が、いかがなものでしょうか。
次に会長様に昨年お願い致しました弟の戦死場所確認と、戸籍訂正の件ですが生存者がおられまして、この度、戦友と当時人事係の少尉の方の証明書をいただき四月五日家庭裁判所に書類を提出し、受理されましたので御報告申し上げます。この事につきましては会長様始め、会友の秋元輝夫様、菅野久雄様には大変お骨折をいただき厚く御礼を申し上げます。決定までは四ヶ月ぐらいかかることと存じますが、五十年を契機として、正しい戸籍を残せる事を確信しておるところでございます。有難うございました。

北海道 上原 帝二

昨年度の厚生省主催マージナル諸島戦歿者慰霊巡拝団に、参加させて頂き、マージナル方面遺族会のご活躍をはじめて知りました。永年のご活躍に敬意を表します。

十九歳の誕生日に、空中戦で南の空で散った弟がいとおしくて、一度は現地慰霊をとの思いがやつと果せました。特攻隊として、出撃の直前に終戦を迎えて、一死をまぬがれた末弟の健剛と共に、参加してまいりました。

終戦となり復員して、空で散った弟の骨箱を、お墓に納める時に開けてみましたが、一片の骨も無かったことが甦り、南の空に煌めく、どのお星様になったのかなと、うるむ目でマジュロの空を仰ぐと、南十字星が雲にかくれゆくところでした。

弟の正春の戦死は、昭和十七年二月一日未明、マージナル諸島には米軍ハルゼー中将が指揮する第八任務部隊の攻撃があり、空母エンタープライズの攻撃中に、指揮官の千歳海軍航空隊タロア派遺隊の、中井一夫大尉と共に散華して、山本五十六連合艦隊司令長官より感状と金鶏勲章を頂きました。

弟愛しさからの慰霊でしたが、この度現地を訪れることができて、マージナル諸島での玉砕の様子がよくわかりひたすら冥福を祈るのみでした。

私は昭和十五年から終戦まで、中国

大陸に従軍中で、サイパンの玉砕は情報で知っておりましたが、マージナルの玉砕も沖繩への米軍の上陸さえも知らずに、第一線で戦っておりました。

先日、春節の中国を訪問して、桂林や蘇州で中越戦で両足を失い、大腿部に滑車をつけ、短い松葉杖でゆく傷兵の姿を目にして、平和日本の有難さを感じました。

マージナルの英霊達も、故国の平和を願っていることと思ひます。

新潟県 高林 セキ

今年こそは、今年こそはと思ひながら老いの不安から長いことご無沙汰してしまいました。お陰様で今年には参加させていただく事ができました。

当日の朝は、早いせいか東京の街は静かでした。九段坂を登ると大鳥居が見えて来ました。心がしずまるようにして。空はうす曇りでしたが、靖国の桜は三分咲きというところでしようか。参集所の前には、会長様始め役員の方々がそれぞれの役割に忙しく立廻っておられました。

参集所の中は何年ぶりの懐かしい笑顔がいっぱいでした。又、言葉かけられてもお名前が思い出せずとまどったり、お互に元気に再会できた事を喜び合いました。

午前十時、神官の御先導で身を清めて昇殿参拝、神前に敬肅な祝詞奏上の上、ひととき、物静かさの中にあの日の事

が甦りました。

十八年八月三十日、夫は殊の外残暑厳しい中を応召兵として出征、私は三キロの田舎道を八ヶ月の子供をおぶつて駅まで送り、日の丸の小旗をちぎれる程に振ったあの日、あの時の事が走馬燈のように頭の中をめぐる、何とも表現できないひと時でした。

終つて靖国会館の前で、記念写真を撮り終えた頃には英霊の嬉し涙でしょろか、ぼつぼつと小雨になりました。

総会に移り、佐藤会長の挨拶に始まり事業報告、決算報告、事業計画、予算案と、それぞれの担当者により行われいずれも異議なく拍手を以て承認され総会は無事に終わりました。

直会旅行参加者はバス乗場へ。残つた方達は別れを惜しみ、又来年の再会を誓つてそれぞれ帰途につきました。会長様始め役員の方々、本当にお世話様でございました。早朝から御苦労の程、感謝申し上げます。今後とも何とぞよろしくお願い申し上げます。

ラスベガスより

徳原 勇

徳子

佐藤

環礁二月号および奥様からの御丁寧なお便りが、ハワイからこちらに転送されて来ました。ありがとうございました。私共こそ、いつも遺族会の皆様にお世話になっていきます。深く感謝し

ております。

二月十二日にカリフォルニアから車でラスベガスの新居に到着しましたが、気候、風土がハワイとは全く異なるためそれに慣れるまでが苦勞と思いましたが、しかし自分の家と決めたからには時間をかけて慣れる以外ありません。

いまラスベガスでは大がかりな住宅開発が続いており、アメリカ全国から人々が新居を求めて集まって来ます。私共の家の周辺も開発の途中で、まだ市内の地図にも載っていません。ハワイと比してケタ違いに広いので、道を覚えるのも大変なことです。

ラスベガスはトバクの町というイメージから抜けようと今、総合娯楽センターの建設が続けられています。いつか、遺族会の皆様も、ラスベガスに団体旅行でおいでになるかもしれません。それを楽しみにしています。

いづれ、周囲の様子がわかりましたら、またお便り致します。お元気で過ごし下さい。皆様によろしく。

(新住所は14頁にあります)

愛知県 吉田 ひさ子

此の度は環礁五十八号御送付下さいまして、ありがとうございます。

会の近況を知る事ができ、楽しみに待っております。

私の主人はブラウン島で玉砕した吉田進と申します。昭和十八年十一月末満州より出動いたし、守備隊歩兵第十

一大隊に在籍致しており、二月二十四日玉砕となりました。先日五十回忌の法要をすませ、一入寂しさがつのつて参ります。四歳と一歳の子供を連れて満洲昂々溪から引揚げて来ましたが、幸い無事に今日の目を迎える事ができて喜んでおります。

私共、第十一大隊の慰霊碑が、五十九年に建立されました。毎年四月には慰霊祭が行われることになっております。私は幸いに最初からマーシャル方面遺族会に入会させて頂きまして、色々の事を知ることができ、矢野雄三様の記事で、当時の様子がわかって参りまして喜んでおります。

実はお願いがございます。同じ部隊の沢山の御遺族の方々に差上げたたく思いますので、環礁五十八号の残部がございましたらお送り頂けませんでしょうか？

御面倒なことをお願いしてすみませんが、よろしくお願い申し上げます。

岐阜県 坂下 綾子

余寒きびしく、飛驒は「もどり冬」となり雪が舞っています。先日は「環礁」お送り下され有りがとうございます。先日のNHKテレビの「太平洋戦争」を見、又去年の夜十一時半から「ブラウン島の玉砕」を見て、戦死した兄の悲しかった最期を思うと胸つぶれる思いです。

今日二月二十三日は丁度五十年前に

兄が戦死した日です。早朝の夢で兄が「前線は大変苦戦している。銃後の者はしっかりしないといけないよ。殊に教育者の身、頑張ってくれ」と云い、敬礼して去って行きました。忘れられない日々を過して私も七十歳になってしまいました。今日は実家へ仏様参りに行って来ました。

父母は他界して二十一年と八年。忘れられようとしている太平洋戦争、決して忘れてはならないと思います。今年は二月末日東京へ勉強に出ますので三月の慰霊祭には参加出来ませんが、来年は参加させて頂きたいと思っております。実家では将校の兄が無事帰還して家をついでくれています。

第十一大隊

慰霊祭に参列して

東京都 片岡 良子

父橋田正弘は、海上機動第一旅団第一大隊の皆様と共にブラウン島で玉砕しました。命日は19年2月24日です。

元の部隊の関東軍独立守備隊第十一大隊の皆様が、三ヶ根山上に慰霊碑を建立し、毎年心からの慰霊祭を行って下さいます。

今年4月23日に第十回の慰霊祭が行われ私も兄弟三人もいつものように参列させて頂きました。集ったのは、島崎正猪(私の兄)外遺族35名、マーシャル方面遺族会佐藤会長以下の来賓



6名様、全国各地からの戦友91名様でした。幸い晴天に恵まれしめやかな内にも盛大に行われました。先ず全員が白菊一輪ずつお供えた後、太山寺住職小笠原寛明師の読経のうちに、遺族、来賓、戦友の順に香を供え、終って太田会長の御挨拶がありました。

母は日頃「一度はブラウン島に行きたい」と云って行く方法を調べておりましたが、原水爆実験の残留放射能のため立入禁止とわかり、それならば島に近い洋上からでも、と希望していましたが、一昨年念願を果たすことなく82歳で他界いたしました。

この度の慰霊祭の御縁で、遅ればせ乍ら兄弟三人で本会に入会させて頂きました。来年は母の遺影を抱いて現地へお参りしたいと思っております。

●島別座談会シリーズ(第三回)

ル
オ
ツ
ト
座
談
会

■日時／平成五年四月十八日

■場所／東京都勤労福祉会館

午前十時より黒川幹事の司会で進められた。会場正面にはルオットの慰霊碑の写真が飾られ、左右に靖国神社の御酒と生花を供えて、佐竹常任幹事の発意で、ルオットの方角に向かい全員黙禱を捧げた。

はじめに会長からルオット島の現状が説明され、更に次のお話があった。「クエゼリンのホーリー・アキさんから司令官交替のことを知らせて頂いたので、ご挨拶申し上げたところ、ヘーゼル新司令官から遺族たちがクエゼリン環礁を訪れるなら大いに歓迎するとのありがたいお手紙をいただいた。」

座談会は司会者より順次自己紹介をまじえて進められた。私達遺族からみれば、父であり、夫であり、兄弟で、それぞれ大切な肉親を失った悲しみは皆同じです。しかもその大半の遺族は、戦死の公報が入っても戦時下のきびしい体制にあつては、戦死した場所も判らず玉砕とだけ聞かされただけだった。現代のような情報化の時代になつても、私達遺族は肉親の戦死に至るまでの情況は、戦史などで僅かに知るのみです。

次々に発言する会員の方々も、どんな所で生活して、どのような状況であつたかは依然として厚いベールにつつまれて真相は不明のままです。判らないままで、英霊として潔ぎよく散つただけを、自分の心に刻みつけておくだけで充分であ



中央にルオットの慰霊碑の写真が飾られた

る。悲惨な最後の模様などは聞きたくない、又は知らない方がよいとの考えも理解できます。

私は戦時中は陸軍の一兵士として、中国大陸に居たので南の島の生活、戦争の様子は全く判りませんが、昭和五十六年八月に現地慰霊に行つて、悲痛な思いにかられました。

こんな小さな島で物量の豊かな米軍の進攻を迎えて戦つたが、始めから勝敗は判つていたと思います。

日本軍は死守することが、至上命令であり、玉砕は避けられなかったでしょう。五十年前、南方の孤島で悪戦苦闘の末、散華された英霊たちのことを私達は生き続けている限り、しっかりと胸に抱いて守つてあげたいと思えます。ルオット島の慰霊碑には「ルオット島防衛のため、自らの生命を捧げた日本の勇士ここに眠る」と英文で銘記されています。私が現地慰霊に行つたときは、ルオット島へ行くことはむずかしい時でした。特筆すべきことは、ルオットの慰霊碑はアメリカ側の好意で作られたものと聞きました。五十年前に同島で激戦に次ぐ激戦の中で、一名の投降者もなく全員玉砕して散華した日本軍の武士道をたたえて感銘されたのでしよう。

戦後同島の造成整備に、ハワイ在住の日系人も多く就労して、その方々も慰霊碑の建立に御尽力下さつたとのことで、感謝の念で一杯です。

マーシャル方面の数多くの島々で、日本軍の将兵が戦死されましたが、米軍から慰霊碑を建立された所は、ルオット島だけです。私達ルオットの遺族にとつては、悲しみの中にも何か救われた感がします。(黒川 誠)

当日の発言のぬきがきを次に記します。

内山浅子 父は第4海軍施設部長で本部はトラック島にあり、マーシャル方面で飛行場建設をしていたそうです。18年8月頃マーシャルでは物資が不足していて、禰にも困っていることを知り、神奈川県人会で古い木綿の単衣を集めて禰を作つて送りました。が、現地に届く直前に玉砕になったことをトラック島の本部職員から知らされて遺品の時計とカメラが届けられました。

大島か乃 弟は石川県の出身で山口県岩国航空隊でしたが、戦死の時は七五五航空隊でした。錦帯橋をバックにした写真や、佐賀県航空隊からの写真や便りが届きました。横須賀へ面会に行き、一緒に撮つた写真や便りもありましたが、戦災で何も残つておりません。今日は孫と参加させて頂きました。

菊地彦亘 兄は17年8月横須賀海兵団に入団し、18年12月2日に木更津航空隊で会つたのが最後でした。七五二航空隊整備兵としてルオットで玉砕したことを浮田さんから伺いました。戦死公報を受取つたのは19年秋です。

佐竹エス 夫は七五二航空隊で、18年5月に木更津から千島のホロムシロへ出発しましたが、10月9日に札幌で会い、11月19日に小樽港で別れたのが最後となりました。木更津からと思われる12月1日付の便箋3枚の軍事郵便には「安んじて明鏡止水の心境で行ける。再会は永遠に望めないかも知れない。この便りが届く頃は新しい年であろう。決戦の年に向かい頑張る」とあり、19年2月6日に南洋群島方面で戦死との公報を19年6月28日に受取ったが終戦後、木更津の友人にルオット島で玉砕したことを伺った。

仏教文化協会が現地慰霊の新聞発表を見て希望したが中止になり、浮田さんから伺って当会へ入りました。

42年に皆様のご厚意による現地慰霊の後、日系人の方達にお願いしてルオット島とも連絡もできて、写真等も頂きました。現地から持って来た珊瑚石をご入用の方にさしあげます。

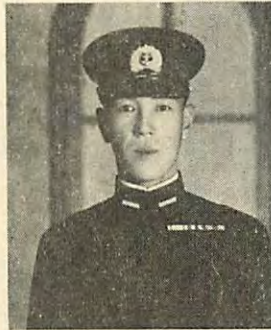
田賀将一 父は二八一航空隊で、戦死の時は姉も幼く、私は8ヶ月の乳児でした。成長してから靖国の遺児として昇殿参拜することができて、父が戦死したことをしみじみと感じました。

戦地からの便りも多かったようですが、現在に残っておりません。母と姉と三人でルオット島の現地慰霊に参加することができたことは、何よりの慰めでした。ルオット島からの帰りに、アメリカ軍用機のパイロット補助席で

ルオット島を二周して機上からの写真撮影もできました。

アメリカ軍発表のルオット島の戦況を日本語に訳した印刷物や、現地の写真を皆さんにお配りしました。

西森サツキ 兄は七五五航空隊でした。愛媛県出身で同じ海軍航空隊の方から、ルオット島の玉砕を知らされましたが、その方も特攻隊で戦死されました。



埼玉県 山下 みつ

夫海軍少尉山下正雄は、巡洋艦長良乗組で、機銃群の指揮官でした。18年12月5日の早朝、ルオット島の近くで敵機大編隊の攻撃をうけて応戦中、頭を負傷し、日の丸の手拭を鉢巻にして指揮をつづけていたところ、さらに胸を撃たれて、壮烈な戦死をとげたと言いました。

長良は、艦体を傾け乍らトラックにゆき、修理をして一旦帰国しましたが19年8月7日九州天草の西方で、敵潜水艦の魚雷2本をうけ、乗員348名が艦と運命をともしました。

戦争が始ってから長良での戦死者は全部で414名とのことです。

戦後、残った乗員たちで、「軍艦長良会」を作り、私も遺族も毎回参加していますが、夫を慕う人たちが文集の中に「立派なやさしい上官でした」と書いてありました。

功六級金鶏勲章と勲六等单光旭日章が形見となりました。艦長さんからいいねいなお悔み状を頂きました。

戦後は人一倍の苦労はありましたが夫や祖先に守られ、二人の男の子も立派に成人し、よいお嫁さんにきてもらい、孫も4人となって、皆幸せに暮しております。

ルオット島で玉砕した 陸軍市のこと

東京都 蓮尾 諭吉

私の弟陸軍市は、海軍兵学校第六五期（昭和一三年卒）で、ルオットでは第二八一航空隊の飛行長（海軍大尉）として務めていました。

第二八一航空隊というのは、昭和八年二月二〇日舞鶴航空基地で新たに編成された海軍の戦闘機隊で、三月一日横鎮（横須賀鎮守府）に所属し、館山基地で開隊しました（司令は所茂八郎中佐）。第二八一空の定数は零戦四

八機で、分隊長（分隊所属の士官）クラスを除くと実戦経験者は少なく、館山で隊員の練成が行われた。一八年五月ごろに訓練概成後一八日

付けて一二三航艦（航空艦隊）第二七航戦（航空戦隊）に編入され、三沢美幌經由で北千島のホロムシロ基地に進出し、主として防空および対潜攻撃の任につきました。同年一月ギルバート方面の危急に対応して消耗した二七航戦に編入され、マーシャル方面に進出するよう下令されました。

二月三日二八一空の第一陣はルオットに進出しましたが、その直後二月五日米機動部隊の攻撃を受け、同空は二七機出撃し四機を失いました。同空は一〇日までですべての移動を終り防空を担当しました。

一九年一月三〇日マーシャル群島各地に米機動部隊が来襲し、わが航空機は殆ど地上で撃破され、翌三十一日には魚雷、爆弾、燃料などの大部分を喪失、通信も途絶えました。三日間の砲撃で島の形が変わったそうです。二月二日米軍は砲撃の後上陸。わが守備隊は勇戦奮闘の末玉砕しました。米軍がクエゼリンを占領した二月六日がルオットの命日とされています。

（月日は戦史叢書によりました）

神奈川県 岩田とし子

戦死した兄とは十五歳も違うので、余り記憶がありませんが、兄が軍属を志願した時私は十歳でした。夢を見たのだけははっきり覚えて居ります。その頃日暮りに住んで居りましたので浅草へ映画等を見に行き、ケーキ、シユ

ーマイ、角砂糖の真中にココアの入った菓子等を買ってきてくれた優しい兄でした。戦災で茨城県に移転しました。兄が芝浦の訓練所に志願して入ったのは昭和 17 年 6 月です。8 月半ば頃に仲間の方をお連れして、「おいしい物を作って」と云われ、食糧不足の折でしたが母が一生懸命に作って、食べさせて夕方帰りました。うしろ姿の見えなくなる迄見送ったのが最後となりました。

姉は 8 月末に有楽町で待合せて会ったのが最後となったそうです。8 月末に芝浦より第一と丸で出港したそうです。

ハガキも大分来たようですが戦災で全部焼いてしまいました。

最初に着いた島は食糧不足なので、姉が銀座のジャーマンベーカーリーに勤めて居り、支配人(ドイツ人)に何回か焼いて頂き送ったそうです。

親しい友人には、自分が死んだら形見に愛用のカメラを使って欲しいとか又今度お逢い出来るのは靖国神社とか書いてあったそうです。両親には心配をかけたくない心遣いか、そのような事は書いてなかった。母は初めの頃は必ず三年たてば帰ると云って居りましたが、だんだんと言わなくなりました。ルオット島に移ってからは、食糧に余り困らない、島民の食糧と交換するので香水を送ってほしいとの事、一度姉が送ったそうです。

昭和 19 年 2 月 6 日、時刻不詳南洋群島方面に於て戦死、の公報がありました。遺骨は、20 年 8 月に受け上野の寛永寺に仮安置され、茨城県の実家に帰りました。中には半紙一枚が入って居たそうです。靖国神社には昭和 37 年頃合祀されました。

座談会出席者 内山浅子 大島か乃
金子武晴 菊地彦巨 斎藤則男 田賀
将一 津久井艶子 西森サツキ 橋本
岩樹 蓮尾諭吉 藤田清瀬 山下みつ
佐藤宗丕 黒川誠 佐竹エス 高橋鎮
夫 高林芳夫 昼間楽平 佐藤夫人
昼間夫人 佐久間フミ子 計 21 名

回 想

神奈川県 金子 武晴



私の家は農家で、父幸太郎、母エイト三人の子供(輝雄、花子、武晴)の五人家族で、別に長女が他家に嫁いでいました。父は病气持ちであまり仕事は出来ず、兄が家に居る間は文字通り大黒柱の役目をしていました。その兄が兵役に出た後は本当に家業の維持は

容易ではなく、兄の手紙にはいつもこの心の心配が書かれて居ました。昭和十八年十月を基準としますと、父五十七歳、母五十歳、輝雄二十二歳、花子十七歳、私が十三歳でした。

同封した兄の手紙に出てくる人の名前は、山元町の賢坊は姉の子供、中屋の正ちゃんは中国大陸に出征中、まきちゃん、ちやこちゃんは地元の女子青年団員、そして安ちゃん是从兄弟で満州で警察に勤めていました。

同封しました写真は兄が南方に出勤する直前、横須賀にて撮影したものです。撮影後直接自宅に送るよう依頼して行きましたので、本人はこの写真を見て居りません。遺骨として納められたのもこれと同じものです。

戦後、戦死の公報があっても実際は生存していたとの話がよくあり、知人達から「あなたの兄さんも帰って来るとも知れないよ」と励まされ、私も家族もそれを信じた。各地より復員船が帰港する時、それがラバウルやその近辺からの時はいつも期待して、今日の時頃には兄が帰宅すると何回も思ったのですが、すべて空しい事でした。「岸壁の母」の歌を聞くと、いつも私の目頭は熱くなるのであります。

戦地からの便り

神奈川県 金子 武晴

発信者 故海軍整備兵長 金子輝雄

(十九年二月六日ルオットにて玉碎)
宛 先 妹花子 弟武晴
拜啓

暫く御無沙汰致しました。其の後皆様にはお変わり無く御元気に農事にお励みの事と思ひます。

私も渡南以来今では南方の気候にも馴れ元気で軍務に服して居ります故他事乍ら御安心下さい。故郷の方は如何ですか。すっかり晩秋と成り秋の取入で農事も愈々多忙期に近づき皆んなほんとうに大変な事と思ひます。働き手が少なくて苦労するでしょうが、戦争必勝の為に御元気で働き下さる様にお願ひします。

陸稲、さつま芋等はどんなですか。よく取れた事と思ひます。庭の柿も今では色がついたでしょう。花子、武晴も元気かね。花子もお父さん、お母さんの仕事を一生懸命に手伝って下さい。武晴も学校の暇な時には手伝う様にな。どうだね、今年あたり栗取等が大勢きてうるさいだろうね。

次、山元町の賢坊は大きくなつたらうな。やっぱりいたづらをするでしょう。山元町へも手紙を出しますが、姉さんに会った時には私も元気だからと伝えて下さい。

中屋の正ちゃんから便りが有りますかね。元気で大陸に奮闘して居る事でしょう。まきちゃん、ちやこちゃん等も今でも元気で青年団等で張り切つて

平和を祈り靖国神社春季例大祭齋行

(靖国神社社報「靖国」四五五号より転載)

平成五年の靖国神社春季例大祭は、神苑の八重桜が美しく咲き誇る四月二十一日から二十三日までの三日間、厳粛且つ盛大に執り行われた。

二十二日の当日祭には、勅使が参向。天皇陛下からの御幣物が奉られ、また、皇族方も親しく御参拝になられた。

清祓奉仕

春季例大祭奉仕にあたり、宮司以下全神職は、二十日夕刻から斎戒、参籠に入り、翌二十一日午後三時、拜殿前庭に於て「清祓ノ儀」を執行。参列諸員が祓の麻にて心身を清め、更に殿内、神域、祭儀の諸具を祓い清めた。引き続き御本殿に進み、例大祭のつづがなき奉仕を祈念する「本殿ノ儀」を執行した。

勅使・堤掌典御祭文奏上

翌二十二日は「当日祭」。この日には、中山利生防衛庁長官、中井澄子日本遺族会会長代行、井本臺吉英霊にこたえる会会長、古屋哲男奉賛会会長代理、羽倉信也・井内慶次郎両崇敬者総代、松平永芳前宮司をはじめ、各界代表六百名が拜殿に参列する中、午前十時、大野宮司以下奉仕員が御本殿に進み祭典を執行。

まず国学院大学吹奏楽部の奏する「国の鎮」と共に、御内陣の御扉が開

かれ、次いで和妙・荒妙をはじめ海川山野の神饌五十台が供せられた。

次いで大野宮司祝詞を奏上。午前十時三十分、参列者が奉迎申し上げる中、堤公長掌典、勅使として参向。御幣物を奉献し、大御心のままに御祭文を奏上せられた。

次に国学院大学フォイェルコール混

声合唱団による「鎮魂頌」の献案の後、特別参列者が玉串を奉りて拝礼。その後、宮司は参列者に対し挨拶を申し上げた。

翌二十三日の「第二日祭」は、森田康之助崇敬者総代をはじめ、全国から参集した御遺族、崇敬者五百名が参列して執行された。また、午後六時には、祭典を無事終了し終えた感謝を奉告する「直会ノ儀」を執行し、春季例大祭は滞りなく終了した。

皇族方御参拝

また、此度の例大祭期間中、二十二日午後一時三十分には、三笠宮同妃兩殿下が御昇殿、玉串を奉りて拝礼せられ、次いで拜殿で奉迎の遺族崇敬者に親しくお言葉をおかけになられた。

また、宮司の御案内により、去る十二月十五日新装成った相撲場を御覧になられた。

ウオッジェ島に開設する ハイスクールに図書費寄贈

会友 篠崎 英夫

私は去る五月十三日にマーシャル方面遺族会のウオッジェグループを代表して、マーシャル諸島共和国日本大使館に駐日大使キンジャ・アンドウリケ Kinja Andike 閣下を訪問して、来年八月ウオッジェ島に開校予定の「ノーザンアイランド・ハイスクール」 Northern Islands High school の図書館の図書購入費の一部として、一千米ドル相当額を寄付致しました。

なお、本件はマーシャル諸島共和国ならびにウオッジェ島住民との友好親善を深め、かつ、ウオッジェ島にむける第二次大戦中の多くの戦死者の追悼を祈念するためのものであることを申し添えました。

これに対して大使閣下から、マーシ

ナル諸島共和国政府、ノーザンアイランド・ハイスクール及びウオッジェ環礁の住民を代表して深甚な謝意が表明されました。

右の資金は、平成二年四月二十八日に行われたウオッジェ島戦死者合同慰霊祭の剰余金のうち、靖国神社およびマーシャル方面遺族会に寄付したあとウオッジェ島の子供たちのために残した資金の中から、二回にわたって慰霊巡拝の折にスポーツ用品を贈った残金の一部であります。

略儀ながら紙上を以って前記慰霊祭に参加され、格段の御芳志をいただいた関係各位に御報告いたします。

(マーシャル方面遺族会ウオッジェグループ合同慰霊祭実行委員会事務局)

(12頁よりつづく)

居るかね。別所で今年あたり入営する人が居るでしょうか。

満州の安ちゃんから便りが有りますか。元氣の事と思います。

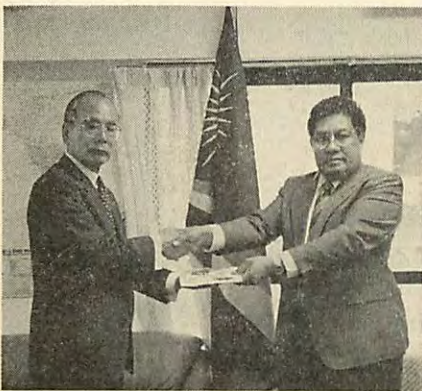
あまり長く成りますから今日は此の辺でペンを置きます。花子、武晴も体に気を付けて下さい。お父さん、お母さんにも宜敷く。暇な時にお手紙願います。

椰子の繁る南方より皆様の御健康をお祈り致します。

近所の皆様に宜敷く。佐様奈良。

輝雄 出

花子
武晴 様



名 簿 訂 正

(4) ◎ 平成3年8月15日発行の会員名簿を次のとおり訂正いたします。

<頁>	<氏 名>	<訂 正 事 項>
21	上原 帝二	〒044 北海道虻田郡倶知安町字八幡298 TEL0136-22-3040 戦歿者上原正春、続柄兄、所属部隊千歳海軍航空隊、戦歿年月日 17.2.1 戦歿地マロエラップ<新入会>
22	田中 正治	続柄を弟に訂正
23	本堂 テフ	平成4年6月死亡のため退会
	鈴木 伊佐男	〒028-84 に変更
31	櫻井 かね	住所熊谷市銀座4-6-9 に変更
	中根 杉子	TEL0485-91-1002 加入
32	相川 孝夫	戦歿者相川真吾に訂正
33	田中 雄吉	TEL043-233-4605 に変更
34	宮本 豊吉	住所千葉市中央区南町3-4-18 に変更
	谷沢 英子	住所我孫子市本町1-6-3 メゾン0-1 203号に変更
36	片岡 良子	〒165 東京都中野区野方2-21-2 TEL03-3386-8822 戦歿者橋田正弘、続柄長女、所属部隊3131 戦歿年月日 19.2.24 戦歿地ブラウン<新入会>
	小林 法子	戦歿年月日 20.1.2 に訂正
37	島崎 正猪	〒164 東京都中野区南台4-42-5 TEL03-3381-5461 戦歿者橋田正弘、続柄長男、所属部隊3131 戦歿年月日 19.2.24 戦歿地ブラウン<新入会>
	菅沼 昇	TEL03-3425-0769 に変更
39	蓮沼 常子	〒174 東京都板橋区常盤台4-19-9 TEL03-3932-1023 戦歿者松尾元治、続柄妹、所属部隊3133 戦歿年月日 19.2.24 戦歿地ブラウン<新入会>
41	渡辺 妙子	戦歿年月日 19.1.30 に訂正
42	小野 よし子	平成4年9月死亡のため退会
43	川名 茂子	住所横須賀市小矢部2-11-6 TEL0468-53-0082 に変更
44	橋田 正幸	〒211 川崎市中原区木月大町25-1-205 TEL044-711-0563 戦歿者橋田正弘、続柄次男、所属部隊3131 戦歿年月日 19.2.24 戦歿地ブラウン<新入会>
47	山田 正三	続柄弟に訂正
49	室田 薫	TEL0764-21-2142 を加入
54	大見 シノブ	〒446 安城市新明町28-11 TEL0566-74-5959 戦歿者大見鎮久雄、続柄妻、所属部隊3131 戦歿年月日 19.2.24 戦歿地ブラウン<再入会>
69	板浦 重雄	〒811-51 に訂正
70	森 テル子	住所長崎県西彼杵郡長与町吉無田郷1488-144 に訂正
71	土田 利子	TEL096-381-7903 を加入
	村上 佳寿子	住所熊本県上益城郡御船町大字小坂1992-4 に変更
72	桃田 志津代	住所大分県宇佐市長州下町130 に変更
73	揚野 サツエ	TEL0992-73-2303 に変更
76	大幡 幸吉	平成4年7月死亡のため退会
78	十二 徳次	平成4年12月死亡のため退会
79	松平 永芳	備考元靖国神社宮司に変更
	田代 幸一	〒343 越谷市神明町3-268-10 TEL0489-63-4768 備考厚生省課長<新>
	並木 進	〒359 所沢市並木2-2-2-6 TEL0429-98-4166 備考厚生省課長<新>
	浜松 恒雄	住所を〒260 千葉市中央区宮崎町726-7-109 TEL043-263-5289 備考元厚生省課長に変更
	村瀬 松雄	備考 元厚生省課長
	徳原 徳子	8342 Drop Camp St. Las Vegas, NV 89123 U.S.A. TEL702-896-3108
80	徳原 勇	同 上

寄付者芳名

(敬称略・順不同)

次の会員及び会友の皆様は年度会費を完納された上更に慰霊奉賛のため
 浄財を御寄付下さいました。厚く御礼を申し上げます。
 今後とも本会の永年存続のため何分の御協賛を切にお願い申し上げます。

北海道	上原 帝二	黒沢 克己	芳賀タツエ	宮本 豊吉	谷沢 英子	吉田ヤヨイ	吉田 正次	新 潟 県	片桐 さき	後藤 末吉	鳥 取 県	杉川 及江
白 山 枝 子	西村 博							小 林 正道	近藤 茂	佐藤 フジ	岡 山 県	金子ミサヲ
青 森 県	池田 精治	小笠原 広	東 京 都	青木 利一	荒木 常子	石川 澄子	和歌山 県	高橋 繁男	洪谷セキノ	高野 清	浜 田 数江	
菅 井 光	高杉 ミト	田中 正治	五十嵐孝三	飯島浩一老	飯島 祐宣	吉光 澄子	福 井 県	高橋 梅子	高林 セキ	坪井 繁男	山 口 県	
塚 原 ハナ			石谷 トシ	岩浪きよ子		福 井 県	田 賀 将一	松岡 イキ	山田 正三	山 口 県	内富ミツヨ	
岩 手 県	小杉 リサ	菅原 キイ	内海 静枝	遠藤 安男	大給 湛子	山 梨 県	黒川 正文	中山 春枝	渡部 守	高 知 県	五百蔵国尋	田中 百合
宮 城 県	新田富美子	平形いせこ	大石 潔	大嶋 か乃	国松ふみ江	長 野 県	牛山 光子	神田 環	徳弘 萩子	野 島 真人	青 山 アヤ子	荻野千代子
松 木 孝子	山本 ちゑ		栗原 利雄	黒川 誠	小池 勇二	高見沢およう	宮入 貞夫	宮下 礼子	福 岡 県	青 山 アヤ子	樗木孝二郎	
秋 田 県	奥山 キノ	熊谷サタヨ	小山キミ子	佐竹 エス	佐藤 宗丕	岐 阜 県	鳥本みさを	山田 八重	金子庄之助	河 村 末義		
小室舜司郎	近藤キクエ	相馬 ツキ	齋藤耕太郎	齋藤 幸江	坂本美枝子	吉 田 綾	渡辺 三三	市川 市郎	西原 康雄	橋本マサエ	秦 サカエ	
山 形 県	秋保 十郎		鈴木つな子	菅沼 昇	菅沼 清	静 岡 県	飯田たつ子	市川 市郎	初瀬 隆乘	家 迫 ソヲ	吉 松 貞子	
福 島 県	江間正二郎	吉津ミドリ	菅谷喜代子	高橋 鎮夫	高林 芳夫	大 塚 かね	後藤 行雄	土屋まさ子	佐 賀 県	草 場 マキ	坂 本 トセ	
富 田 ミツ			佃 喜美	出口 スエ	中田 テル	野 崎 豊秋	服部くにゑ	増田 将三	田中 ノエ	宮 崎 ツヨ	山 田 雪子	
茨 城 県	大熊 正美	神谷 和枝	中村 順子	中村 久	長尾 静子	山 田 登世	山本 きく	川越 コウ	長 崎 県	板 浦 重雄	林 文枝	
富 田 保	堀江 誠一	宮内 はつ	西沢 和子	沼山 正英	蓮尾 諭吉	愛 知 県	大森 すず	川越 コウ	前田 フサ	森 テル子	山 下 タエ	
若 狭 明光			長谷川智子	番場 信子	昼間 楽平	川 村 正一	浜田 芳枝	山田 あき	熊 本 県	植 川 二男	植 田 静夫	
栃 木 県	猪瀬 ナカ	木村恒三郎	間々田やす	水野 はな	柳沢 正雄	吉 田 正一	岡島みね子		江 口 フジエ	北 村 権蔵	塚 野 ヨン子	
田 名 網 武夫	吉川 芳蔵		山口 裕子	山 森 久江	六軒つる子	滋 賀 県	伊藤 きぬ	中川 修	松 本 義雄	村 上 佳寿子		
群 馬 県	園部 重太		渡辺 妙子	伊沢 ヤス	石渡 綾子	京 都 府	谷 正文	川本 彦次	大 分 県	石 塚 文子	友 枝 カオリ	
埼 玉 県	井沢 なを	宇田川ひさ	神奈川 県	岩田とし子	大石 岳男	滋 賀 県	正野 きぬ	中川 修	宮 崎 県	高 橋 重美		
北 原 ひで子	栗原 タネ	小谷中せい	岩 瀬 トシ	岩田とし子	大石 岳男	京 都 府	谷 正文	川本 彦次	森 フサエ			
近 藤 マスエ	櫻井 かね	柴田 貞子	沖立 キヨ	金子 武晴	川名 茂子	大 阪 府	中野フヂエ	馬場富美子	鹿 児 島 県	川 畑 ツルエ	出 花 利文	
中 根 杉子	藤田 清瀬	山下 みつ	熊沢 静子	佐藤 登志	渋谷 良雄	福 田 音和	兵 庫 県	枝光 剛郎	原 田 惟行	村 上 ノキ	和 田 芳久	
千 葉 県	相川 孝夫	石川 きみ	鈴木 リン	露木 千鶴	西森サツキ	兵 庫 県	枝光 剛郎	大石 明裕	沖 縄 県	石 原 キク	座 波 ツル	
加 瀬 よし	川名 博夫	櫻井 一正	松下 綾	三村ともよ	吉田 操	安 福 道明	山 形 雅俊	山野イクエ	玉 那 覇 有賢	宮 城 カマド	宮 城 幸子	
浄 永 孝	津久井艶子	豊谷美恵子	吉田 正次			和歌山 県	福 井 栄子					

会友・篤志会員等 秋元 輝夫
 足立 広信 江村 源次 押谷 義雄
 恩田 寛次 香月 正紀 吉良 正義
 篠崎 英夫 須藤 伝 高田源次郎
 竹内 政信 豊谷 秀光 キリバス共
 和国名誉領事室 小林 重雄
 土屋 太郎 松平 永芳
 以上は平成四年十二月一日から五年
 五月三十一日までに、寄付された方々
 二八三名で、その合計金額は百三十万
 七千七百三十四円でした。

靖国神社を崇敬しお護りする

奉賛会に入会しましょう

護国の英霊の鎮ります靖国神社
 の末長き御安泰のために、御祭神
 に最も身近かな私どもは全員が
 奉賛会に入会しましょう。
 奉賛会については同封の「しお
 り」を御覧下さい。

本部だより

☆お便りをお寄せ下さい

この「環礁」を、同じ境遇の仲間た
 ちの心のふれ合いの場としてお気軽に
 御利用下さい。身の周りのこと、趣味や
 レクリエーションのこと、この会に対
 する率直な注文など何なりとお寄せ下
 さい。原稿は原則としてお返ししてお

りませんので、返却を要するものはそ
 の旨を書き添えて下さい。採否と多少
 の手直しはあらかじめ御了承下さい。
 明年の五十年祭にあたり、皆様の熱い
 思いを「環礁50年祭記念号」に募集し
 ております。本号4頁をお読みの上奮
 って御寄稿下さい。

☆会費完納のおねがい

本会の活動に必要な経費はすべて会
 員と会友の浄財だけで賄われており、
 他からの補助等は一切ありません。会
 を長く続けてゆくためには財政の安定
 が是非とも必要でありますので、会費
 の完納に御協力下さい。

今後は会費を納めない方は退会の申
 し入れがあったものとして、会員名簿
 から削除し、会報「環礁」の発送を中
 止しますので、御了承下さい。但し、特
 別の御事情のある方とは個別に御相談
 したいと思っておりますので、御遠慮なくお
 申出下さい。

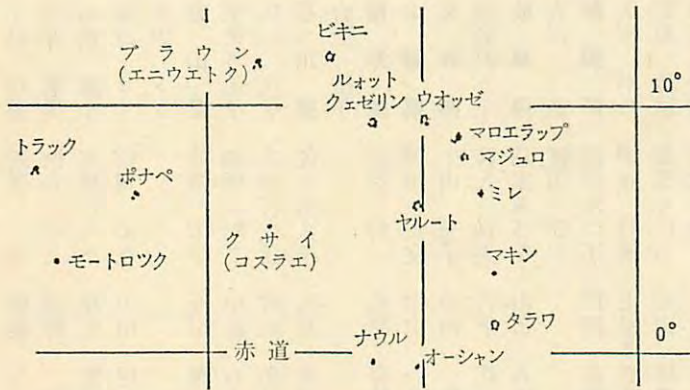
☆入会のおすすめ

本会は、会費を納めた者を会員とし
 て登録し二月と八月に会報「環礁」を
 お届けしております。

この会のあることを知らない方が沢
 山居ります。お知り合いに本会をPR
 して下さい。マージャー諸島とギルバ
 ート諸島方面の戦没者の親族ならば誰
 でも御入会頂けます。同方面に勤務さ
 れた戦友の皆様には会友として御参加
 頂いております。会員、会友とも年会
 費は二千円で入会金は要りません。

五十年祭現地慰霊巡拝についてお尋ね

50年祭委員会では、明年の50年祭開
 連行事の一つとして、会員多数の希望
 があれば現地に於て厳肅な慰霊祭を行
 うことを企画しました。
 ついてはその資料としたいので参加
 を希望する方は9月末日までにハガキ
 で本部宛お知らせ下さい。



一、時期 平成6年8月下旬 約9日間

二、順路 往路 成田→サイパン→マジュロ 復路 マジュロ→ハワイ→成田

三、サイパンとハワイで先の大戦において犠牲となった諸霊に対して慰霊の式を行います。

四、費用 概算 51万円〜54万円 (全額本人負担)

五、参加対象 本会会員、会友及び会員、会友の推せんした者

六、尚コースについての御意見もお聞かせ下さい。

本部

〒103 東京都中央区日本橋人形町 一―八―二(泉商事ビル)

マージャー方面遺族会

電話〇三―三六六一―八七六〇 FAX〇三―三六六一―六二四一